

中華料理教室を開催しました！

1月20日(日)に、アオウゼで、中華料理教室を開催しました。講師に、福島中国伝統文化愛好会の叶先生、許先生、阿部先生をお迎えし、「チャーハン」「エビチリ」「八宝菜」の3品を作りました。半分以上の参加者が外国の方でしたが、先生たちの説明をしっかりと聞きながら、楽しく料理を作ることが出来ました！最後には「幸せなら手を叩こう」を各国の言葉で歌い、非常に楽しい料理教室にすることが出来ました。



▲美味しい料理に笑顔で答えてくれる参加者の皆さん。



▲先生の詳しい説明で、調理も問題なし！



▲皆大満足の料理教室でした。

3月ふれあいネットワーク事業 AL Tと日本食を作ってみよう！



日本料理をあまり作ったことのないAL Tの先生たちや、日本料理の先生と一緒に、買い物からスタート！先生たちとコミュニケーションをとりながら「手まり寿司」「海老しんじょうのお吸い物」「ふろふき大根の春野菜添え」を作ります！

日時：3月10日(日) 9:40~14:00

会場：A.O.Z 調理室 定員：15人

内容：買い物から日本食の料理まで 持参物：エプロン、手拭き

講師：齋藤麗子先生 参加料：協会会員・学生 500円、一般1,000円

申込み：3月5日(火)までに、電話・FAX・メールで福島市国際交流協会事務局までお申し込みください。お申し込みの際には、氏名・電話番号をお知らせください。

TEL: 024-525-3739 FAX: 024-533-5263

メール: teijyuu@mail.city.fukushima.fukushima.jp

日本食にチャレンジ
してみましょ♪



▲齋藤 麗子先生

Fukushima and Me part.4 ～ルイーズさん、福島で聞いてみた～

イスラム教について 質問してみました！

普段皆さんが接することのあまりないイスラム教。前回に引き続き、私キャロル ルイーズが、福島市在住のイスラム教徒であるインドネシア出身の星 レニーさんと、青年海外協力隊でマレーシアに行っていた中鉢典子さんに、イスラム教についてのインタビューをしてみました！



▲インタビューのキャロル・ルイーズさん(左) 青年海外協力隊でマレーシアに行っていた中鉢典子さん(中)、インドネシア出身の星レニーさん(右)

キャロル：マレーシアの人は毎日ヒジャブ（女性が頭や体を覆う布）をつけていますか？

中 鉢：つける人とつけない人がいて、見た目でムスリムの方かどうか、わかりません。真剣な信者のように見えて、実はそこまででもない人もいます。ただ、ラマダン（断食）だけは非常に厳しいです。

レニー：ラマダンは聖なる1ヵ月だからです。これはイスラム文化の一つで、1ヵ月食を断って、その後にイッドという大きな祝いがあります。断食の本当の意味は、ただ食べ物を口にしないだけでなく、自己反省のために心と精神をきれいにするということです。だから、断食を1ヵ月した後は、毎年赤ちゃんのように生まれ変わります。

また、ラマダンの時は、シェアするというのもしなければいけません。1ヵ月は、お金のあまりない人や体の不自由な人を助けるために、自分の物やお金を分けなければなりません。食べ物と飲み物を口にしないだけではありません。

キャロル：ラマダンは1年のいつ頃ですか？

レニー：今年（2018年）は6月でした。ムスリムの1年は太陰暦を使っていますので、毎年違います。

キャロル：ムスリムにとって他に大事な日はありますか？

レニー：私の知っている範囲では、ムスリムはアラビックの文化を基にしていますので、祭りと言うものがあまりありません。でも、マウリド（予言者ムハンマドの誕生日）はお祝いをしています。そして、インドネシアではイスラム教の日だけではなく、クリスマスも祝日です。各宗教の特別な日に祝日があります。

また、イデゥル・アダというものがあります。イデゥル・アダはメッカに行ける人たちのためにある大きなセレモニーです。お祝いのために、クールバン、すなわち供物としてヤギか牛を食べます。何を供物にするかは、その人の持つお金によって異なります。イスラムにはステージがあります。そのステージを進まなければなりません。まずは神を信じることです。それから毎日5回祈ることです。最後に、お金があればメッカに行くべきです。でもお金が無いのならば、行けなくても仕方ありません。少なくとも頑張っていればですが。

中 鉢：私は、メッカに行くための銀行口座を作っておかなければいけないと聞きました。これがメッカに行くこうとしている努力を意味するそうです。

レニー：私の場合は、親戚に代わりに行ってもらいました。私は良いムスリムではないのかもしれませんが、もちろん私も行きたいんですけどね、それはいつかわかりません。

キャロル：日本に住んでいるムスリムとして、どんな問題がありますか？
また日本人に分かってもらいたいことは何ですか？



レニー：正直に話してしまうと、時々日本では、イスラムのイメージはテロリストと一緒にされてしまうということが多いです。それは私にとって本当に悲しいことです。何故なら、本当のムスリムは人を殺したり傷つけたりしないからです。

レニー : 私は20年以上日本に住んでいて、今まで問題があったことはありません。日本人は心が広いです。宗教のことをあまり気にしていません。宗教的なセレモニーがあるときは、郡山のモスクに行きます。そこに福島に住んでいるムスリムは集まってお祈りなどをしていますが、周りの邪魔をせず、迷惑をかけず、平和にしていれば地域の人は気にしていません。

私がJICAの講師をしているときにいつも教えていることがあります。それは、インドネシアや、他の宗教的な国に行くときは、無宗教とは言わないでください。宗教的な国の人達は、何故あなたには人生を先導するものがないのか分からないからです。インドネシアでは日本の宗教は神道であると学んでいます。

中鉢 : それは日本人として、とても答えづらい質問でした。協力隊としてマレーシアに行くまで、考えたこともなかったからです。神道は文化の一部になっているし、仏教と神道が統一している部分もあるからです。例えば、お正月の時は神社に行きますが、人が亡くなったらお寺に行くし、教会に行くときもあるからです。

レニー : 日本人はとても心が広いと思います。宗教に対する考え方が根本的に違う気がします。

中鉢 : でも、マレーシアに行ったときに、日本人と自分のことについてもっと深く考える機会になりました。私たちが信じていること、私たちの宗教はなんだろうかって。

レニー : 宗教はもともと人生の指導者のようなものです。哲学ですね。テレビ放映で、亡くなった後人がどうなるかについての質問している子供を見ました。インドネシアでは、子供たちは学校で宗教について勉強しているので、知っています。

キャロル : 日本では宗教のことを教えていますか？

中鉢 : 道徳の授業はありますね。

キャロル : 日本人にとって、宗教にはどんなイメージがありますか。

中鉢 : よくわからないから、恐いだと思います。学ぶことが、大事ですね。

キャロル : ハラルとはこういった決まりなんですか？

レニー : 食べ物をイスラムのルールに沿って準備して食べるということだけです。それだけです。

キャロル : なぜムスリムの人は豚肉を食べられないんですか？

レニー : 昔のムスリムは砂漠の民族でした。猪を狩って食べたりしましたが、熱さで肉が腐って、よく病気になりました。ハラルの基本は人を守るための、健康的な食べ方です。しかし、コーランには、豚肉を食べてはいけないと書いてあるので、ムスリムはまだそれを守っています。宗教は、時々信じて言葉通りにするしかありません。

また、イスラムのルールで、動物を殺したらお祈りをしなければなりません。これはとても大事です。生命は神様のものです。人が勝手に取るものではないのです。牛肉もハラル、つまりはイスラムのルールに沿って準備しています。

お酒も飲んだらいけません。例えばフレーバーとして酒を使っていて、アルコールが飛んでいても、厳しい人は食べません。ホテルの場合はキッチンを別々にしないとダメです。

キャロル : なぜイスラムの国に行きたいと思ったんですか？

中鉢 : 以前は本当にイスラム教のことについて知りませんでした。日本ではイスラム教に関わる機会がないんです。マレーシアで接したムスリムは、凄くフレンドリーで優しかったです。大変お世話になりました。でもやはり、日本に帰ってからは、ムスリムについて学ぶ機会がないので、イスラム教の国であるモロッコで働いていた友達と、ハラル料理教室を行うことになりました。

キャロル : 今日は、インタビューに答えていただきまして、ありがとうございました！

レニー、中鉢 : こちらこそ、ありがとうございました。





ルーズさんと学ぼう!

ALT・CIRと英語で話そう

場所：A.O.Z
 時間：2月21日（木）18：30～20：00
 参加費：福島市国際交流会員：無料
 留学生・学生：500円
 一般：1,000円
 （初回に協会入会金、以降参加費無料）
 定員：5名（定員になり次第締切。初参加者優先）
 内容：ALTやCIR（ルーズさん）と一緒に英会話のレッスンを行います。
 申込み：同右



洋画・洋書で英語を学ぼう

場所：A.O.Z 視聴覚室
 時間：3月12日（火）18：30～20：00
 参加費：同左 定員：10名
 内容：毎月洋画か洋書で英語を勉強します。今月は、ハイジ（洋書）を題材に勉強します。
 対象：中学校卒業程度の英語力のある方
 申込み：開催月の1日～開催日前週の金曜日までに、福島市国際交流協会まで、電話かメールで
 tel:024-525-3739
 email: teijyuu@mail.city.fukushima.fukushima.jp

英語 面接指導講座

内容：英語の面接試験（英検・IELTS）の対策を行います。ルーズ先生が面接官役を行い、本番さながらの面接指導を行います。

場所：A.O.Z 時間：2月22日（金）18：30～20：00

参加費：福島市国際交流会員：無料
 留学生・学生：500円（初回に協会入会金、以降参加費無料）
 一般：1,000円（初回に協会入会金、以降参加費無料）

定員：5名（定員になり次第締切）

申込：2月20日（水）までに、福島市国際交流協会まで、電話かメールで。

申込時に、受験予定の試験を伝えてください。

tel:024-525-3739 email: teijyuu@mail.city.fukushima.fukushima.jp



Fukushima and Me part.5 ～ルーズさん、半年を終えて～

福島に来てからあっという間に半年が経ちました。仕事と生活にも慣れて、平日に仕事をして、週末に家事をして、出かけたりするパターンができ上がりました。この町はもう慣れたと思っ
 ていても、いつも通っている道を変えると、新しい道の風景やおしゃれな店を見つけたり、朝カーテンを開けたら真っ白な冬景色になっていたり、飯坂温泉の西根神社のどんと祭りや、高湯温泉の足湯にピクニックに行くようなちょっとした冒険など、まだまだ私を驚かせてくれます。

福島は人口の割りに居酒屋が多いとよく聞きますが、レストランとカフェの数も本当に多いと思います。何回も行く好きな店もちろんありますが、新しい店に行くのも大好きで、福島だったら全部回るのに何年もかかりそうです！オーストラリア、得にメルボルンではカフェ文化が根強くて、日曜日の11時ぐらいにゆっくり友達と「brunch」（breakfast:朝ごはんとlunch:昼ご飯を同時に）を食べに行く習慣があり、カフェの雰囲気がとても懐かしいです。

雪が降る所に住むのは初めてではないですが、一夜で景色が変わる魔法にやはり心が惹かれます。でも冬が好きと言っても、早朝の白鳥の鳴き声と、つるつるの氷の道はそろそろ勘弁して欲しいです。神社と祭りが大好きで、寒くて滑る恐怖があってもどうしても出かけたくくなります。でも気づくと暖かくなれる所に出かけることが多いです。大好きな絵馬を探しに行った西根神社のどんと祭では、炎が暖かくて離れることができずでした。オーストラリアのビーチの焚火を懐かしく思いながら、炎を眺めていました。行列でうそ鳥は買えませんでした。が、から揚げとたい焼きをたくさん食べて、旧堀切邸の足湯に入って、充実した一日になりました。

先週末も、体を温めるために初めて高湯温泉に行きました。冬にピクニックをしたいという冗談話から、本当に雪の中の高湯で足湯でピクニックをすることになりました。足を温めながら、友達と話したり美味しいものを食べたりして心と体を癒すことができました。温泉水が滑らかで気持ち良かったですが、匂いのせいでどうしても卵が食べたくなってからは、目玉焼きが最近のマイブームになっています。



飯坂温泉の西根神社どんと祭

